

# 沼間小学校区地域連合会だより

発行責任者 永瀬 寿重

## 平成 29 年を迎えての抱負

永瀬 寿重 会長 (沼間3丁目自治会)

新しい年、平成29年になりました。旧年中は、沼間小学校区地域連合会に絶大なるご協力を戴きまして誠に有難うございました。

昨年は世の中いろいろと問題のある年でありましたが、会員の皆様におかれましてはお変りなくお過ごしのことと思います。

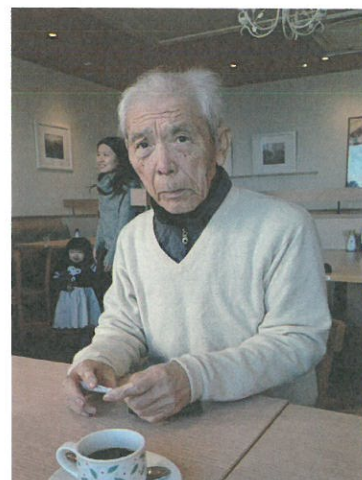
連合会においても、神武寺トンネル拡張工事により従来の渋滞以上に住民の皆様への迷惑が増大していること、また、風水害により皆様の近隣でも崖崩れが発生したこと、私たち連合会の地域内において交通死亡事故、および犯罪の発生など、今まで経験したことがないようなことにも出会い、従来の生活環境から新たな生活環境に変化して行く年であったと思います。そして、このような変化に対して、住民の皆様と協調しながら問題を解決すべく努力をしてきた年でもあったと考えております。

今年は、以上の事柄をこれまで発行済みの広報でもお知らせいたしました方針により、一つずつ良い方向になるよう、たとえば主要道路の渋滞対策、防犯対策などについて、自ら成すべきことは自分たちで実行し、一方、危険個所の対策については行政へ働き掛けを行うなど、住民の絆を深める対策を沼間小学校区地域連合会が一体となって取り組んで進めて行きたいと思っております。皆様の一層のご協力をお願いいたします。

また、沼間小学校区は当然、逗子市全体としても望まれておりました、総合的病院の誘致が具体的にになってきました。今回は最終の病院誘致となると思っておりますので、一部地域の住民の方には大変ご迷惑が掛かりますが、総合的に考え、この誘致が実現するよう皆様一致してご努力いただきたく、切にお願い申し上げます。

逗子市も全国的な傾向にたがわず、人口減、収入予算減と苦しい時代に入ってまいります。当連合会も逗子市民として、自分たちができることは自分たちで行い、住み良い逗子、暮らして楽しい逗子を構築すべく、今から地域として何をなすべきか、平成29年は、一つの大きなテーマとして「地域づくり計画」を立案して行きたいと考えています。皆様が思っている沼間小学校区地域を見つめ直し、将来どのような地域にしたいか、そうしたことを考えていく年としたいと思います。個人主義を大切にしながら、共同で何をなすべきかを考えた計画づくりを進めたいと思っております、皆様のご賛同をよろしくお願い申し上げます。

新しい年に入り、沼間小学校区地域連合会会長として本年の抱負を述べさせていただきます。



永瀬寿重会長

## 総合的病院誘致について市長から報告

平成 29 年 1 月 28 日（土）の代表者会議において、平井市長から総合的病院誘致の進ちょく状況について報告がなされました。昨年 9 月 24 日以来の説明ですが、その内容を担当する市福祉部国保健康課でまとめていただきましたので、お知らせします。

### 公募・選考・決定

昨年 10 月 4 日から 11 月 18 日までの間、沼間 3 丁目の市有地を候補地として総合的病院の公募を行ったところ、二法人からの応募がありました。

選考に当たっては、医師や大学教授など 3 名の委員で構成される逗子市総合的病院選考委員会が各法人の計画等について調査及び審議を重ね、その結果選考された法人にさらに市長が直接ヒアリングを実施し、最終的に医療法人社団葵会を選考法人として決定しました。

### 葵会が提案する新病院の概要

葵会の提案では、内科・循環器科・小児科・外科・脳神経外科など 12 の診療科目を予定しており、ベッド数は最終的には 300 床を目指します。

また、在宅療養患者の容体が急変した場合にも円滑に入院ができる体制や、周辺の病院・診療所等と連携体制を構築します。特に、横浜南共済病院とは重点的関連病院と位置付けます。

### 今後の予定について

病院開設までは、大きく分けて 3 つの流れがあります。1 つはベッド数の確保の手続きです。これは、県内の地域ごとにベッド数が定められており、不足が生じると県から配分されます。2 つめは建築計画です。当該地に病院を建てるには、都市計画用途地域の変更等が必要なため、これらの手続きを進めます。3 つめは周辺の環境整備です。周辺道路の必要な改良を進める予定です。

1 月 28 日の代表者会議でも、これらに関する質問が多く寄せられました。今後も、皆様の意見を聞きながら手続きを進めてまいります。

### 1 月の説明会を終えて

1 月は 15 日（沼間小学校区住民説明会）と 21 日（市民説明会）に説明会を開催しました。そこであった質問を 1 つ紹介します。

葵会は全室個室を提案していますが、全てに差額ベッド代がかかってしまい、お金に余裕のある人しか入院できないのではないかと不安を持たれているご意見をいただきました。しかし、差額ベッド数の割合は総病床数の半分以上と決められているため、たとえ個室であっても、全てに差額ベッド代がかかるわけではありません。個室の割合や差額ベッド代の設定も、利用者の視点に立って検討してまいります。

## 「右折車に優しい環境づくり」 県道 24 号線（バス通り）渋滞対策

渋滞緩和の取組について、前回の沼間小学校区地域連合会だより第 16 号で紹介しましたが、今回はその後の進捗状況をご報告します。

この取組は、アーデンヒル入口交差点から逗子警察署入口交差点まで、最近是非常に長い交通渋滞が発生しておりますが、この渋滞を少しでも緩和することを目的としています。

- 渋滞の原因は
- ① 右折車線が無い場合、後続の車が繋がってしまう。
  - ② 複雑な交差点のため、交通信号機の時間調整が難しい。
  - ③ 現在工事中の神武寺トンネルの拡幅工事のための交通止め 等があります。

渋滞解消には、神奈川県・逗子市等行政の対応が最優先となりますが、まずは住民が出来る渋滞緩和の取組を考えてみました。道幅を広くしたりすることは簡単にはできませんが、原因の一つと考えられる渋滞中の右折車をスムーズに通過させることができれば、渋滞の緩和につながると思われました。



県道24号線を運転する方々が、右折車が見えたら《優先的に通過させる優しい運動》を心掛ける環境を作りたいと考え、右折車に優しい運転環境を作るため、電柱幕やバナーフラッグの製作・取付を計画しています。取付の場所・方法、各種規制への対策等の調査を行い、県道24号線の渋滞区間沿線におよそ60カ所(予定)に取り付ける予定です。

《渋滞緩和運動を展開するためのお願い活動》

現在、幕やフラッグ製作のために市や企業などに協力を依頼している最中です。取組推進のために、市内のバス会社・タクシー会社・商工会等の運転する方々に協力していただけるようお願いに伺いました。

《今後の予定》

- ① 宅配業者・スーパーマーケット・小売店・ディーラー・病院等へ協力依頼に行きます。
- ② 「ずし 広報」・「沼間小学校区地域連合会だより」・各自治体への回覧等を通して住民へのアピールを計画しています。

渋滞緩和の活動は、皆様方のご協力が必要ですので、よろしくお願いいたします。

(沼間小学校区地域連合会 県道渋滞対策検討委員会)



電柱幕への取付イメージ



街路灯へのバナーフラッグ

取付イメージ

## 寄稿

## 人間性豊かな子どもを育む

沼間小学校石井校長

本校は1947(昭和22)年に逗子小学校から独立(創立記念日5月19日)し、2017年の今年で70周年を迎えようとしている歴史ある学校です。現在は40人学級編成で、19学級(特別支援級2を含む)で534名が在籍しています。今年度4月からは通級指導教室(通称やまびこ)が1棟3階に開設されて、そこには本校の児童を含めて逗子小学校と池子小学校の児童が、合計で43名通室しています。

30年ほど前は45人学級編成でしたが、当時の方に話をうかがうと一学年で6クラスあった時代があり、運動会では現在のグラウンドに、アリの通る隙間もないほど、児童と保護者並びに地域の皆様でいっぱいだったそうです。

さて、本校では次のような学校教育目標を掲げて、子どもたちとの教育活動を推進しています。

『めざす児童像』として、人間性豊かな子ども

### 1 すすんで学ぶ子

すべての事象に対して、学んでいく姿勢を持つ子ども(共学)

### 2 おもいやりのある子

他者への感謝と、労いの気持ちがもてる子ども(共育)

### 3 たくましい子

困難なことを、たくましく乗り越えていく子ども(共生)



石井進介校長

日頃より、児童の登下校の見守り、読み聞かせをはじめとした、ボランティアの皆様方のご協力に支えられながら、本校の教育活動が進められています。こうした協働者のご尽力が、本校の子どもたちを育むためのハンドメイドの教育力として、私ども教職員にとっては心強い大きな存在となっています。

地域における子どもたちの様子や課題など、そして本校の教育活動に対しまして、いろいろお声をいただいていることに心より感謝申し上げます。今後とも、間口の開いた顔の見える沼間小学校を運営し、保護者並びに地域の皆様に期待され、応援していただける学校づくりを目指してまいります。

これからも本校に対する、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 「防災施設マップ」作成中

市役所や消防署から遠い沼間小学校区においては地域による防災・救護体制の強化と充実が急務です。

通常の火災等であれば、現状の消防を中心とした「公助」に不足はありませんが、大規模災害時の同時多発的な被害では「公助に限界」が生じます。電柱や家屋の倒壊、崖・トンネル・橋梁の崩壊、護岸崩落による河川の氾濫等により、道路や踏切が寸断され沼間小学校区内の諸地域は、孤立化する恐れがあります。また、津波等で市役所と消防本部が機能しなくなった際、第3次災害対策本部としての機能を沼間コミュニティセンターが担うことから、沼間小学校区の防災・救護体制の強化と充実は、全市的な課題と言えます。以上の背景から、地域性を踏まえ優れた「共助・自助」の実現に向け、その一助となるツール「防災施設マップ」を作成しています。

全市対象の津波災害・土砂災害・風水害の各ハザードマップが既に各戸配布されていますが、防災施設（避難所、公園、消火器、井戸、防災倉庫他）の全てが一面に記載されたものは市でも用意がなく、加え、沼間小学校区に特化したことで、よりリアルで詳細な防災対策に寄与するものを目指します。

この度の作成に当たり、市はもとより各自治会・町内会・管理組合（以下、自治会等）の全面的なご協力を得ています。各々市内外の資料を持ち寄り、地域を実際に歩き検証しました。地域自ら作成に加わり、他の地域と比較することで、これまで見えなかった課題も抽出されています。

- ・自治会等の組織から漏れている地域や住民がいる。
- ・線路を境に北側の地域（沼間2、4、6丁目）は、消火器が市によって設置されるが、南側の地域（桜山3、4、5丁目、沼間1、3、5丁目）は自治会等による。よって、消火器のない地域がある一方、自治会等の努力でかえって設置が充実している地域もある。
- ・高額なスタンドパイプ（これまで消防しか使えなかった消火栓を、大規模災害時などに住民も消火活動に利用できる機材）の普及が進まない。
- ・老朽化した防災倉庫の建て替え、又はその新設が、県の指導の厳格化により進まない。（面積2㎡を超える防災倉庫は、例え公共利用でも建築確認申請が必要など、設置費用が従前の2.5～3倍に）

この春に完成予定の防災施設マップにより、一層の防災環境の充実と防災意識の向上を、地域で、ご家庭で求めて頂きたいと願っています。

（防災施設マップ作成プロジェクトチーム）

## 活動再開！！ 五桜会

私がかのころから活動していた五桜会が、平成26年度から会長をやる人がいないため、休会となっていることを知り、私自身、父や母が役員として活動していた内容を見てきていたので会長に立候補して活動を再開しようと思いました。

そこで、旧役員に連絡して2016年3月末に再開準備委員会を開催してもらい、会長に立候補した経緯、五桜会の運営や活動の考え方を表明したところ賛同が得られ、五桜会活動再開のための総会が同年5月に開催されることになりました。

総会において再開について賛同を得られましたが、再開するにあたり、一度各家庭を訪問して、入会の意向を確認したのちに再開することにしました。私も地区委員と一緒に20軒以上訪問して確認を行いました。その結果、57世帯の人たちに賛同をもらい、10月から五桜会の活動を再開することになりました。

五桜会は県営桜山ハイツ周辺の居住者を対象として、地域住民の生活環境の向上と相互の親睦を図り、明るい町づくりを目指して活動することを目的としています。年会費は千円で、主な活動内容は次のとおりです。

### （1）防災対策

- ①災害時のための食料備蓄  
飲料水（2リットル×120本）  
山菜おこわ（50食）カンパン（72缶）
- ②防災用具の保管  
油圧ジャッキや消火器、  
万能かまど、レスキューセットの保管
- ③避難訓練の実施（年1回予定）

### （2）防犯対策

- ①地域内防犯パトロールの実施

### （3）環境対策

- ①生活環境等に問題が生じた場合、県・市・関係団体に要望し速やかに改善を図るよう対処する。
- ②地区内の美化、清掃活動

（会長 前田 光治）